



Vision in the future

ハート(ひと)とハード(もの)で
福祉を拓く社会リハビリテーション

ハート(ひと)を学ぶ...

誰もが安心して自分らしく生きることを願います。その願いを支えるため、生活上の問題がある人にどのように接点を持ち、どのように必要とするサービスにつないでいくか、さらにはサービスをどのように運営していくか(知識と技術)を、ひとと深く関わりあう演習や講義、現場での実習を通して学ぶことができます。

ハード(もの)を学ぶ...

障がいや加齢によって自分でできないことが増えていきます。福祉用具やユニバーサルデザインの道具を用いることで、できなくなったことができるようになります。福祉用具を見て触って、まちに福祉用具を使ってかけて自ら問題点を発見する、住宅の中で福祉用具を用いて生活してみるなど、実践中心で学ぶことができます。

社会リハビリテーション学科で取得可能な資格
社会福祉士(受験資格) 精神保健福祉士(受験資格) 社会福祉主事任用資格
高等学校教諭一種免許(福祉)
※下記の資格取得を目指すこともできます。
福祉住環境コーディネーター 福祉用具専門相談員 介護職員初任者研修
重度訪問介護従事者

社会福祉と生活福祉デザインを学ぶ

社会リハビリテーション学科

<http://www.kobegakuin-sr.jp/>

第16回 気づきを築くユニットケア 全国実践者セミナー

2017年3月11日(土)~12日(日)

神戸学院大学 有瀬キャンパス
〒651-2180 兵庫県神戸市西区伊川谷町有瀬518



認知症ケア
専門士単位3単位

実践発表者には発表者単位として
1単位加算されます。

お年寄りの
表情が
変わった!

職員が
やめない工夫
とは?

動き出しは
当事者から

ワクワクするような実践をたくさんつくり出しましょう!

認知症の方との
コミュニケーション
方法

「気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー」は、2001年の岡山県笠岡市をスタートに、これまで全国7か所で全15回が開催され、毎回、多数の実践現場から、日々の取り組みが発表されてきました。

ひとくちにユニットケアと言っても、その取り組みは施設によって実にさまざまです。既存施設を活用しながら、試行錯誤を重ねてようやくユニットケアに至った取り組みがあります。

このセミナーは、「ユニットケアの基本は現場の実践にある」との考えから、現場のスタッフがケアのあり方やスタッフの育成、施設と地域との連携などの実践をまとめ、伝え合い、交わり合い、より良いものにしていく場として開催します。このセミナーでの発表を機に、「お年寄りの表情が変わった」「職員の姿勢が変わった」「ケアが変わった」など、数多くの感想が寄せられています。

第16回目となる今回も、全国の実践発表をとおして、発表者と参加者がともに学び、考え合う場とすることを目的とし、神戸学院大学を会場に開催いたします。

主催: 気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー実行委員会
共催: 神戸学院大学/特養・老健・医療施設ユニットケア研究会
小規模多機能ホーム研究会/地域共生ケア研究会

1日目 3月11日(土) 実践発表タイムテーブル

11:50～12:00	開 会 (各教室にて)	16:40～18:20	【特別企画1】 「新たな介護保険の幕開け」－生活支援と地域づくり－ 倉敷市保健福祉局(岡山県) 参与兼健康福祉部長 吉田 昌司 (前厚生労働省老健局振興課 課長補佐)
12:00～14:05	実践リレー① (5発表)		
14:05～14:20	休 憩		
14:20～16:25	実践リレー② (5発表)		宮城県地域支えあい・生活支援推進連絡会議 運営委員会委員長 大坂 純 (仙台白百合女子大学 人間学部 教授) ほか
16:25～16:40	休 憩		
16:40～17:55	実践リレー③ (3発表)	18:30～20:00	交 流 会

第16回 実践発表テーマ

第1部門	私たちがはじめた、一人ひとりをたいせつにするケアの取り組みで変わった施設ケア(初級編) ユニットケアに取り組むことになったきっかけや、取り組みのなかで失敗してしまったこと、悩んだことなどの体験談、 また取り組みから気づいたことや見えてきたことなどについて発表します。
第2部門	一人ひとりへの3大介護のあり方とその工夫(基礎編) ユニットケアで3大介護(食事・入浴・排泄の介護)はどのように変わるのか。 3大介護にまつわる苦労や工夫について、発表します。
第3部門	“食”の工夫で目指す、その人らしい豊かな暮らし 食事づくりや場づくり、買い物や外食、栄養マネジメントや口腔ケアなど、 その人らしい豊かな暮らしを目指す取り組みを発表します。
第4部門	これまでの暮らしの継続をたいせつにした生活環境づくり 豊かに暮らすためには生活環境も欠かすことのできない要素の一つです。 これまでに暮らしてきた環境をできる限り変えないための地域とのつながりや施設の設えの工夫などを発表します。
第5部門	介護者家族との協働で実現する、その人らしい暮らし方 利用者に身近な存在である家族はかけがえのないたいせつな存在であり、またさまざまな難しさを抱えていることもあります。 ご本人が望まれるその人らしい暮らしとその人生を実現するための、家族との関係づくりや協働・連携の取り組みについて発表します。
第6部門	認知症の方とのコミュニケーションの工夫 認知症の方に対して尊敬と共感をもって関わるには？ 認知症の方の行動に対する理解や悩み、日常生活での見守りなど、ケアに関する工夫や取り組みなどを発表します。
第7部門	ターミナルケアから学んだこと、考えたこと、伝えたいこと 施設は、日々暮らしをおくるだけではなく、人生の最期の場となることもあります。 「施設での看取りのあり方」「医療機関との連携」「看取することをとおして築かれた家族との絆」など、施設におけるターミナルケアについて発表します。
第8部門	職員同士のチームケアや多職種との連携 一人ひとりの暮らしを支えるには、その方向性や情報を共有するチームの構築や職種を超えた連携が必要不可欠です。 時には、施設を超えた協働や連携も必要となります。ケアに関わる専門職同士が協力しながら、利用者の暮らしを、より豊かにする取り組みを発表します。
第9部門	施設の人材確保、職場の環境づくりについて 昨今、ケアの現場では人出不足が深刻な問題となっています。現場経験や知識が少ない初任者に、ユニットケアの考え方をどのように伝えていくか。 職員が魅力を感じ、働き続けてくれる職場とは？募集から待遇の改善、辞めさせない工夫など職場の環境づくりを発表します。
第10部門	スタッフの育成、工夫したこと、苦労したこと よりよいケアを提供すること、現場のさまざまな事情でリーダーや管理者は思い悩みます。 いまの職員のやる気とやがりがいを引き出すにはどうしたらよいのか。 スタッフの資質をどう伸ばしていくか、人材育成のための工夫や体制づくりについて発表します。
特別部門	思いのままに実践発表(ショート枠10分) 日頃の気づきを思いのままに。日頃のケアをするにあたって疑問や悩み、 とにかく伝えたいことなど、なんでもOK! ケアを中心に愛を叫ぶ!? 通常よりも短い10分枠の実践発表です。

2日目 3月12日(日) 分科会プログラム

A1	10:00～12:00	【アンコール報告】 ～好評だった発表のあれから1年、その後の展開を報告します～ ★実践報告① 動き出しは当事者から ～はじめの一步～ ビーハラまどか(熊本県) 介護職員 溝上 亜紀 ★実践報告② 初めての看取り ～経験がないからこそ感じた気持ち～ 結の郷 小牧(愛知県) 生活援助員 米森 雄基 生活援助員 熊澤 留奈 ★実践報告③ パート×仲間づくり＝働き続けたい 神の園(京都府) ユニットリーダー 河村 芳枝 パート職員 小泉 有花 ★コメンテーター 特養・老健・医療施設ユニットケア研究会 代表 武田 和典 ★インタビュアー 神戸学院大学総合リハビリテーション学部 准教授 水上 然
B1	10:00～12:00	【現場実践支援講座1】 認知症ケア・あなた自身のための「パーソンセンタードケア」 ★講 師 パーソンセンタードケア ワークショップ講師 寺田 真理子
C1	10:00～12:00	【特別企画2】 これからの介護保険のあり方を問う!人口減少社会のなかでの「介護保険」 全国コミュニティライフサポートセンター 理事長 池田 昌弘 社会福祉法人同和園(京都府) 常務理事兼園長 橋本 武也 ★コーディネーター 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 教授 藤井 博志 ほか
12:00～13:00 昼 食・休 憩		
A2	13:00～15:00	【アンコール講座】 「動き出しは当事者から」連続実践講座 ★講 師 日本医療大学 リハビリテーション学科 准教授 大堀 具視
B2	13:00～15:00	【現場実践支援講座2】 認知症の方とのコミュニケーション方法「バリデーションへの誘い」 ★講 師 関西福祉科学大学 社会福祉学部 教授 都村 尚子
C2	13:00～15:00	【現場実践支援講座3】 施設における主体性を支えるケア ★講 師 NPO法人 メイアイヘルプユー 理事 葭田 美知子 ★聞き手 東北福祉大学 総合マネジメント学部 教授 高橋 誠一

Let's make the life of facilities

- 定 員 800人(※定員になり次第、締め切らせていただきます)
- 参加費 ■一般参加費 15,000円
■実践発表者 13,000円
※実践発表者は、1発表2人まで割引適用。
- 交流会費 2,000円
- 参加申込締切 2017年2月20日(月)

参加にあたっての留意点

1日目の実践発表は、各教室にて自由にお聞きいただくことになります。
つきましては、参加者が多い教室では立ち見となる場合もございますので、あらかじめご了承ください。参加者の皆さまには、申込締切後、教室別の実践発表一覧をお送りいたします。一覧を参考に、各教室を移動してお聞きいただくことになります。
なお、2日目の各会場につきましては、事前にお申し込みいただきますので、参加申込書に第1希望と第2希望をご記入ください。

申し込みに関するお問い合わせ

JTBビジネスネットワーク・JTB東北ECデスク
(ご連絡いただくのは東京の事務所となっております)
〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-23-14 ダイハツ・ニッセイ池袋ビル7F
JTBビジネスネットワーク気付 JTB東北ECデスク
「第16回気づきを築くユニットケア 全国実践者セミナー係」あて
電話:0120-989-960 FAX:0120-937-224
E-mail:tohoku-ec@jbn.jtb.jp (営業時間:土日祝除く平日 9:30～17:30)

内容に関するお問い合わせ

気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー実行委員会
事務局／特養・老健・医療施設ユニットケア研究会 担当:田村・大場
〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町16-30
シンエイ木町ビル1階
TEL:022-727-8732 FAX:022-727-8737
E-Mail:unit@clc-japan.com
URL:http://www.clc-japan.com